民主保守派の思い

表題は日経新聞 1 月 24 日「永田町インサイド」、前原・細野・長島氏語るとある。読んで正直なところ落胆した。昨日のレポートでの辺見庸さんの危機感を実感できる。勉強不足であったが、立憲主義や安保法についての認識のずれは大きい。これでは民主党はまとまれない、野党の幅広い連携はできないと暗い気持ちになってしまう。彼らの発言を紹介したくもないが、一部だけでも紹介しよう。

民主保守派の思い

永田町インサイド

前原・細野・長島氏 語る

前原　「民主党はかくあるべきだと考えるとき、政府・与党と内政で違いをしっかり示すべきだが、外交・安全保障政策はそれほど違いがなくていい。現実的な対応をベースに考える。何でも反対ではなく反対であれば対案を示す。責任政党としての矜持を示すことが大事だ」

細野　「安倍政権の内政は本来あるべき保守から離れている。国家先導主義で、設備投資や賃金、携帯電話代にまで関与するという。民主党政権で打ち出した『新しい公共』は民の力を信用し、政府はそっと後押しするという考え方だ。本来のあるべき内政を打ち出していければいい」

長島　「イデオロギーで外交や安保を語る時代は過ぎ去っている。8 割は一緒でよく、ニュアンスやアプローチの 2 割の違いを競い合えばいい。保守 2 大政党の一方が制度疲労を起こしたとき、さっと代われる受け皿を常に用意しておくのが大事だろう。自民党は政権保守で、我々はチャレンジャーの改革保守だ」

細野　「20 年ほど前から護憲か改憲かという時代ではなくなっている。国民的合意ができるものは改正すべきだ」

長島　「改正すればいい。改正の条文ややり方で違いが出てくる」

前原　「民主党はがちがちの護憲ではないので議論を積み重ねればまとまる。安倍晋三首相は野党分断の政局論で憲法改正と言っている。改憲は選挙の争点ではない。数年かけてやらないといけない議論だ」

長島　「共産党と連携するより、おおさか維新を含む野党と地方分権の徹底で憲法改正を共同提案する方がまともな方向性だと思う。地方分権は民主党の 1 丁目 1 番地で野党再編の大きなテーマだ。おおさか維新の会は改革政党を志向している。政権の側に僕らの方から追いやる必要はない」

（2016 年 1 月 27 日）